

第7回 「日本語大賞」

テーマ「わたし私がつか使いたいことば言葉」



小学生の部 文部科学大臣賞 受賞作品

「おかえり」が教えてくれた気持ち

メキシコ

アグアスカリエンテス日本人学校

小学部4年 野崎 竜聖

「おかえり」が教えてくれた気持ち

メキシコ アグアスカリエンテス日本人学校 小学部四年

野崎 竜聖（のぞき・りゅうせい）

玄関のドアが開いた。お父さんが仕事から帰ってきたそのしゅん間、

「おかえりー！」

毎日決まってお父さんは「ただいま」の代わりに「おかえり」と言う。お母さんもぼくも妹も口々に、

「おかえりー！」

犬のチヨコも、

「ワンワンー！」

家族みんなが「おかえり」の大合唱だ。

しかし、どうしてお父さんは「ただいま」と言わないのか。その理由は、毎日一番最後に帰ってくるので、家族に「おかえり」を言ってあげられないからだ。お母さんには買い物から帰ってきた時の「おかえり」、ぼくと妹には、学校から帰ってきた時の「おかえり」、犬のチヨコには、庭で遊んで帰ってきた時の「おかえり」の気持ちだそうだ。

だから、お父さんは「ただいま」の代わりに帰って来て「おかえり」と家族に言うのだ。

ぼくは初め、お父さんがふざけて言っているかと思っていた。だけど、その理由を聞いて心がポカポカと温かく、愛情を感じた。

ぼくは、「おかえり」って言葉について考えた。学校から帰って来て、楽しかった日も、友達とケンカした日も、お母さんが笑顔で、「おかえり」と言ってくれると元気が出る。日本に一時帰国をした時も、みんなが「おかえり」と言ってくれると、とてもうれしくなる。「おかえり」は人を温かい気持ちにさせ、そして元気にしてくれる言葉なんだなと思った。お父さんは、きくとそれが分かっている家族に「おかえり」を言いたかったんだと思う。

夜遅くまで仕事をがんばって、休日もむずかしい顔をしながらパソコンとにらみ合っているお父さん。日本で単身赴任をしていた時は、きつとだれにも「いつてらっしゃい」「や」「おかえり」と言ってもらえずさびしかったはずだ。

（ごめんね、そんな事に気がつかずに。毎日遅くまで家族のために働いてくれてありがとう。）

ぼくはお父さんに感謝の気持ちをこめて伝えたい。

「おかえりー！」